

国際交流基金助成事業報告書

薬学部 3年次生 和田優花

1. はじめに

この度、本学の国際交流基金の助成を受けて、2018年2月26日から3月10日の約2週間、オーストラリア薬学語学研修に参加しましたので報告いたします。滞在中はホームステイをしながらニューサウスウェールズ州にあるノースコースト TAFE キングスクリフ校に通い、英語を学び、2か所の薬局を訪問しました。

2. 語学学校

クイーンズランド州にあるゴールドコースト空港から車で30分ほどの TAFE という学校で、英語や薬学について学びました。TAFE は日本の大学とは違い、高校生ぐらいの年の人から子持ちの人たちが通うような専門学校のようなところでした。様々なコースがあり、美容系、看護系、マッサージなどの教室を見学しました。

午前中の授業では、オーストラリアの地理や気候、動物、アボリジニ、薬学英語などゲームをしながら楽しく学びました。午後は、現地の薬剤師による授業を受け、オーストラリアの薬学事情について学びました



TAFE での授業風景

他にも、日本の文化を知ってもらおうという趣旨で、地元の小学5年生と交流をしました。

子どもたちは日本のことに興味津々で、折り紙や巻きずしの作り方などを実演すると喜んで参加してくれました。



3. ホームステイ

ホームステイ先はポッツビルというところで、稀にカンガルーやコアラが出現するような自然豊かなところでした。ホストファミリーは、ホストファザー、ホストマザー、10歳の男の子、7歳の男の子、5歳の男の子の5人家族でした。

ホストマザーは、学校へ毎日送り迎えをしてくれ、休日はサーフィンやマーケットに連れて行ってくれました。他にも小腹がすいたときに、と言ってお菓子や果物を持たせてくれたり、日差しが強いからと言って、日焼け止めをくれたり、とても優しい方でした。ホストファザーは、カイロパクターという日本でいう整体師の仕事をしていて、平日はほとんどブリスベンに泊まり込みだったので、話をする時間が少なかったのですが、共通の趣味である卓球を一緒にできたのがとてもいい思い出になりました。子どもたちは元気でやんちゃな子たちで、毎日けんかをしておりマザーは大変そうでしたが、私が日本から持ってきたお土産を渡すと、とても喜んでくれて嬉しかったです。学校から帰るとお互いに宿題を教えあったり、家にあるプールで遊んだりして、本当に楽しかったです。私はフライト当日に急遽ホームステイ先が変わったのですが、突然にも関わらず快く受け入れてくれたこの家族の家にホームステイできてよかったです。



4. 最後に

私は今回が初めての留学だったため、渡航前は英語で会話することに自信がなく不安もあったのですが、ホストファミリーを含め現地の方々が優しく接してくれたので、とても楽しく過ごすことができました。

2週間という短い滞在ではありましたが、英語を話すことの難しさ、コミュニケーションの大切さなどたくさん学ぶことができました。留学に行くことを許可してくれた両親、ホストファミリー、TAFEの先生方、ともにオーストラリアで学んだ仲間たち全員に感謝して、今回の留学で得たものを、今後の学生生活そしてその先の将来に活かしていきたいと思えます。

